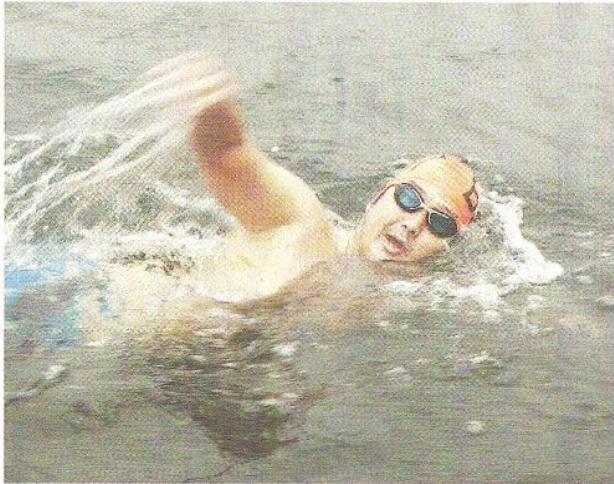


海峡25キロ横断成功

ドイツとデンマーク間

ドイツとデンマークを結ぶフェーマルンベルト海峡(25キロ)の単独横断遠泳に、東京都足立区のJA職員、黒川保隆さん(40)が成功し、20日に帰国した。現地主催者によると、同海峡の単独横断遠泳は1939年以降、8人が成功しているが、日本人は初めてという。

都内在住 40歳の黒川さん



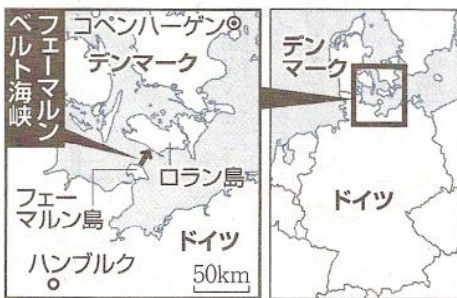
海峡の低い水温の中を、力を込めて泳ぐ黒川さん(並走のボートから撮影、黒川さん提供)



黒川保隆さん

フェーマルンベルト海峡は、ドイツのフェーマルン島とデンマークのロラン島の間であり、北海とバルト海を結んでいる。日本付近ではサハリン北部とほぼ同じ高緯度で、黒川さんによると、海水温は真冬の伊豆の海より低いという。

黒川さんは、今月16日午前8時にドイツ側からスタート



1ト。ボートに乗った審判3人と知人が付き添った。前半は風もなく、水面も穏やかで快調に飛ばした。だが、低い海水温に徐々に体温を奪われ、終盤はほとんど足が動かなくなったが、必死に腕を動かし、同日夕、デンマーク側に到着。記録は6時間24分だった。

黒川さんは3歳で水泳を始め、高校時代は茨城県の海岸でおぼれる人を救助したこともあった。就職後、32歳で参加した東京・新島での遠泳大会以降、国内各地の遠泳大会に参加。海外では、ボスボラス海峡(トルコ)の横断遠泳にも成功している。

今回は、海水温の低いフェーマルンベルト海峡横断に備え、昨年11月から週3、4日プールに通うなど準備を進め、浮力を増すために、体重も7キロ増やしたという。

20日に成田空港に帰国した黒川さんは「とても寒く生きて帰れて良かった。限界を何回も超えた気がする。支えてくれた方々に感謝したい」と話した。